

『夏がくれば思い出す』

吉田真司

上記の標題は良く知られる「夏の思い出」の歌い出しです。皆さんはどのようなことを思い浮かべられるでしょうか。私は幼少期なら「虫取り」「海水浴」です。とは言え、故郷・久留米は内陸部ですから海水浴は年に一度行くか行かないかの特別な経験でした。中高生期なら、部活(陸上・サッカー)に明け暮れた毎日を思い出します。加えて「部活中に水を飲むのは厳禁」ルールも。時代変ればで、今は水分を摂るのは必須、試合中に給水タイムもあります。その変化要因は近年の猛暑でしょう(精神論の変化もあると思われます)。余りの暑さに、屋外での活動自粛の呼びかけ、公園の遊具の撤去という事態に。そう考えると、かつての思い出とは全く違う経験の中を生きており、夏と言えはそういうもの、という認識が通用しなくなっているのかもしれない。最近「蚊が減ったな」と思ったりします。蚊でさえも生息できない暑さなのでしょうか。その問いに関して専門家が「35度を超えるような猛暑が続くと、蚊の数自体が減ると考えられる」と説明していました。ともかくも、異常気象の問題は生態系に甚大な影響をもたらしています。命の創造主を崇めて生きる私たちにとって大いなる祈りの課題です。

今「平和の祭典」と呼ばれるオリンピック開催中です。先週の巻頭言で取り上げたように「戦争を否定し、平和を希求する。多様性を重んじ、差別を排し、人権を喜ぶ」崇高なる意義を確認し祈る毎日です。しかし一方、その大会運営を脅かす妨害工作があったり(そのための物々しい警備体制あり)、また紛争中の敵対勢力の指導者を殺害するといったニュースも飛び込んできます。「時代変れば」と前述しましたが、時代が変っても繰り返されている戦争の仕業を見るにつけ、変らないのは人間、いや「変わらない」のが人間、と思わされます。本日の教会学校で学んだ関連箇所「ヤコブとラバンの契約」(創世記 31:43-54)にある「この石塚を越えてお前の方に侵入したり、お前がこの石塚とこの記念碑を越えてわたしの方に侵入したりすることがないように」がとても崇高なビジョンに思えて仕方ありません。8月は平和月間、今週6日・9日には79回目の原爆記念日をむかえます。共に祈りましょう。

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00~10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40~12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30~10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)		
祈り会	水曜日	午後 7:30~9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30~12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00~12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30~3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間4-24-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>